

佐賀県公立高校入試徹底分析【理科】

【形式・難易度】

試験時間	50分		配点		50点
問題構成	大問は5つ、各大問10点×5で50点満点。化学・生物・地学・物理からバランスよく出題されている。問題量は14ページ分で、ここ数年大きな変化はない。出題範囲について、昨年度までは、4分野×中1～中3の3学年=12単元のうち7～8単元の出題だったが、今年度は10単元と幅広く出題されている。				
	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)
問題量(A4で)	14ページ分	13ページ分	14ページ分	14ページ分	13ページ分
小問数	41問	41問	41問	41問	38問
論述問題の数	1問	3問	1問	2問	2問
論述問題配点	1点	6点	1点	4点	4点
受験者平均点	27.8点	25.1点	27.9点	26.4点	27.9点

【出題の傾向と対策】

1 化学式・化学反応式・イオンをあらわす化学式を書かせる問題は必ず出題される！

R6 2

1(2)表の下線部②の変化を、化学反応式で書きなさい。ただし、電子を e^- で表しなさい。

	マグネシウム板	亜鉛板	銅板
硫酸マグネシウム水溶液	変化なし	変化なし	変化なし
硫酸亜鉛水溶液	① 金属板がうすくなり、 黒い物質が付着した。	変化なし	変化なし
硫酸銅水溶液	金属板がうすくなり、 赤い物質が付着した。	② 金属板がうすくなり、 赤い物質が付着した。	変化なし

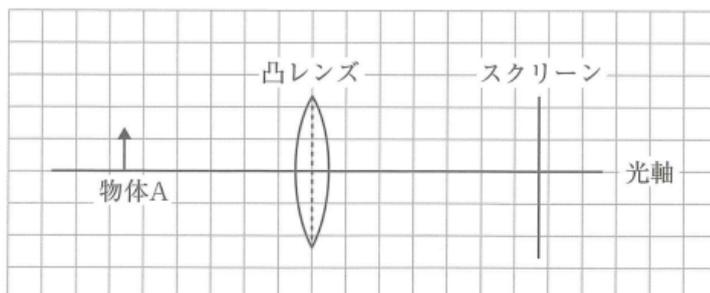
H28～R6までの9年間でH30以外は出題されている。出題されやすい問題は決まっているので、確実に正答しておきたい！

2 作図問題は入試頻出パターンが出るので、作図についても対策ししっかり正答したい！

R5 1

2(1) 凸レンズの左側に物体Aをおき、凸レンズの右側に置いたスクリーンを動かすと、
図の位置のときスクリーン上にはっきりとした像ができた。

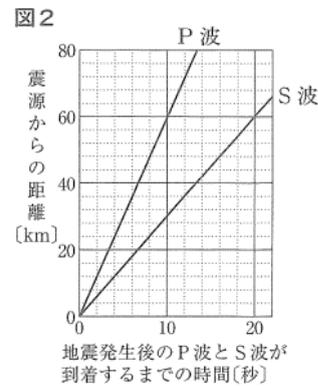
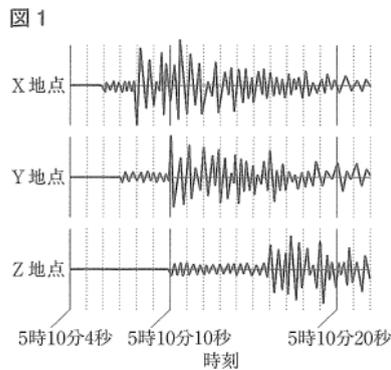
この凸レンズの2つの焦点を作図により求め、点(●)で示しなさい。ただし、
作図の線は消さずに残しておくこと。



作図について、
R6は温帯低気圧と回路図の2問
R5は光と柱状図の2問
R4はフックの法則のグラフ
R3は合力
R2は回路図 と毎年出題されている。

3 計算問題は、基本問題がほとんどなので、基本公式や考え方をしっかり身につけ、図や表を正確に読み取り、確実に正答する力が必要である！

R4 3



3 (2) Y地点から震源までの距離は約何kmか、書きなさい。

計算問題は、
 R6では、抵抗と熱量
 R5では、仕事と仕事率
 R4では、地震、圧力、浮力、再結晶
 R3では、湿度、水蒸気量
 と毎年出題されている。

4 記述問題は、入試頻出レベルの基本問題と、環境問題など身近な問題についても理解しておく必要がある。

R3 2

2 (3) ② 生態系においては、生物の数量に一時的な変化があっても、再びもとに戻りつりが合いが保たれる。しかし、なんらかの原因により生態系のつりが合いが大きく崩れた場合、もとの状態にもどらなくなることがある。このような生態系の数量関係に大きな影響を及ぼすと考えられる具体的な原因を1つ書きなさい。

問題数は少ないが、記述問題は必ず1～3問は出題される。今後出題数が大幅に増えることも予想されるので、入試頻出の基本レベルの内容と合わせて、環境問題など普段からニュースや新聞などから情報を集め、知識をつけておく必要がある。

解答

R6 大問2 1 (2) $Zn \rightarrow Zn^{2+} + 2e^-$

R5 大問1 2 (1) 右図参照

R4 大問3 3 (2) 約18 km

R3 大問2 2 (3) 大規模な自然災害
 外来種が持ち込まれる
 人間による乱獲

